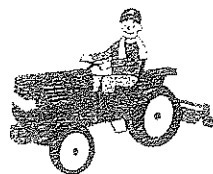


平田村

農業委員会だより



NO 1

2012.6.30

編集・発行 平田村農業委員会

☎0247-55-3115



農業委員長 瀬谷 一男

農業委員会の会報紙の発刊にあたり

この度、平田村農業委員会発足以来、初めてとなる平田村農業委員会広報紙が発行の運びとなりました。

これ一重に、今までの農業委員の諸先輩の皆様方の農業に対する熱い情熱とご指導の賜と厚く感謝を申し上げます。次第であります。

近年、農業を取りまく状況は、非常に厳しいものがあります。農産物の自由化に伴い、価格の低迷、不安定、後継者不足、高齢化、さらに我が福島県にとっては、原発事故による放射能汚染による作付け不能、さらに風評被害と人類史上、類を見ない大惨事状況にあります。平田村においても、葉たばこの廃作により十四ヘクタールの減少、畜産農家の廃業と本村の基幹産業が消滅の危機状況下にあります。

そこで我々農業委員の果たす役割、責任の大きさをひしひしと強く感じているところです。村当局、関係機関と共に研鑽を重ねてまいり、平田村の新しい農産業の確立のために精進する覚悟でございますので、ご理解あるご協力をお願いいたします。

農業委員会が全国表彰受賞

四月十日に東京都内(椿山荘)で行われた全国情報会議の際、村農業委員会会長瀬谷一男氏が、全国農業会議所会長から全国農業新聞優秀農業委員会として表彰されました。

この表彰は、全国農業新聞の普及推進に多大な貢献があった農業委員会におくられるもので、瀬谷一男会長が福島県代表として表彰を受けられました。

また、生田目 昌 和さん

横 田 一 成さん

瀬 谷 一 男さん

情報活動功労者として、農業委員会委員の三名が表彰をうけました。

各専門委員の紹介

葉たばこ専門委員

中井 秀 一 専門委員長

横 田 一 成 生田目 昌 和

瀬 谷 一 男 久保 木 源

畜産専門委員

久保 木 源 専門委員長

矢 吹 正 一 瀬 谷 一 男

阿 部 瑞 男 蓬 田 源 助

鈴 木 実 吉 田 一 雄

水稲園芸専門委員

関 根 克 彦 専門委員長

国 井 明 笠 巻 正 夫

二 瓶 基 次 関 根 歸 久 雄

三 本 松 喜 良

広報・地産地消専門委員

駒 木 根 茂 専門委員長

佐 藤 四 郎 生田目 昌 和

関 根 克 彦 久保 木 源

その他、葉たばこ圃場、廃作圃場の状況調査、葉たばこ作柄調査、また、遊休農地等の農地パトロール、違反転用パトロール等活動、農地の被害状況、子牛のセリ状況、水稲生育調査などを行っております。

広報・地産地消専門部

駒木根 茂

本委員会は、農業委員会の広報の担当として今回初めて「農業員会だより」の発行に取り組みました。農業委員会の任務と活動状況を村民の皆様へわかりやすくお知らせしたいと考えております。

また、地産地消を推進する観点から、原発事故の風評被害の中、大変厳しい状況ではあります。すが、実情の把握、推進のための提言等に取り組みたいと考えています。

農地を転用する時は、農地法の許可が必要です。

⇒農地を住宅に申請したい。
⇒農地に植林したいなど許可なく転用した場合には、違反転用になりますので、農地の転用については、農業委員会へご相談ください。

葉たばこ専門部

中井 秀一

葉たばこ専門部会では、昨年の東日本大震災の影響により、三本柱の中核であった葉たばこを中止せざるを得なく、四十八戸あった葉たばこ農家が、二十一戸廃作し、平成二十四年度の作付け農家は、二十七戸の農家が継続して葉たばこを生産作付けされております。

葉たばこ農家の生産意欲が維持出来るよう、また、今後も葉たばこ生産の主産地として意欲を持てるよう農業の充実を図ってまいります。

水稻・園芸専門部

関根 克彦

水稻・園芸専門部会では、昨年三月十一日の東日本大震災により、原子力発電所の爆発事故以来、福島県の農産物の価格の低

迷、または風評被害等多くの影響を受け、農家は大変な思いをしております。我々農業委員も

各自自治体等との連携を図りながら、最善の努力をして行かなければと痛感しております。

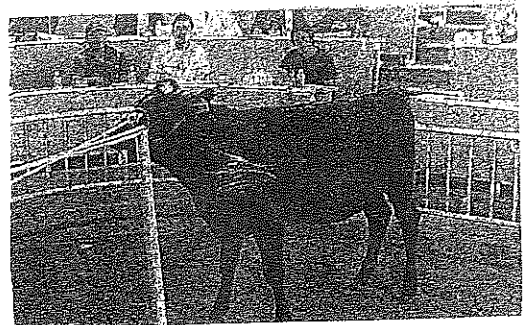
一日も早く今の現状から脱却が出来よう取り組みをしてまいります。

畜産専門部会

久保木 源

畜産部会では、原発事故以来大きな影響が出ております。肥育牛の価格の低迷、牧草の給与自粛、草地更新等問題は山積しているなかでも、子牛セリ価格が平均四十万円を超えていることは、明るいニュースです。

畜産部会では、計画した事業を部会一致協力し、牛肉の消費拡大事業や、セリ視察等、畜産振興に努力をそそいでまいります。



6月11日に石川家畜市場で開催
一頭当たりの平均価格が40万円
台を維持

編集後記

平田村で農業を営む私たちにとって、平成二十四年も不安の中のスタートとなりました。出荷制限、自粛、風評被害等、困難な現実ですが、大変懸念されるのが農業の縮小と意欲の萎縮です。正しい情報を発信しながら農業の再生、福島の再生を目指したいと考えて、これからも皆様によりよい情報の提供をしていきたいと思っております。

駒木根 茂